

平成30年度

「管内研修センター等連携」研修講座

主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業改善

ねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に係る講義や実践発表、演習を通して、学習指導要領に示された指導事項を確実に育成するための授業改善の在り方について理解し、今後の学習指導の充実を図る。

内容

- 1 講義「授業改善が求められる背景」
- 2 講義「学習活動の例」
- 3 講義「各教科等の学びの深まりの鍵となる『見方・考え方』」
- 4 実践発表「授業改善の実際」
- 5 講義「単元等の計画」
- 6 演習「単元レベルで授業改善を考える」
- 7 まとめ

1 はじめに

(1) 課題認識の確認と受講者間での共有(8分程度)

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、現在、皆さんが感じておられる

①自分の課題

②学校の課題

を別紙1に記載した後に、別紙1に基づいて、隣同士で自分の認識を紹介し、話し合ってください。

1 授業改善が求められる背景

1 授業改善が求められる背景

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

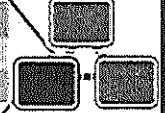
小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
に示す
学習内容の削減は行わない*

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要
な方策等について（答申） 平成28年12月21日

思考の伴った

判断や選択を
自分の考えに
よる

論理的思考
の育成

主体的・協働的

意義の問い

主体的・対話的で深い学び

1 授業改善が求められる背景

○ 主体的な学びの視点

学ぶことに興味や関心を持ち、
自己のキャリア形成の方向性と関
連付けながら、見通しを持って粘
り強く取り組み、自己の学習活動
を振り返って次につなげる。

1 授業改善が求められる背景

○ 対話的な学びの視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

物事を多面的

対話の必要性

出典 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」から

1 授業改善が求められる背景

○ 深い学びの視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

言語化 実践

出典 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」から

2 学習活動の例

2 学習活動の例

主体的な学びにより実現したい子どもの姿（イメージ）



興味や関心を高める



粘り強く取り組む



見通しを持つ



振り返って次へ
つなげる



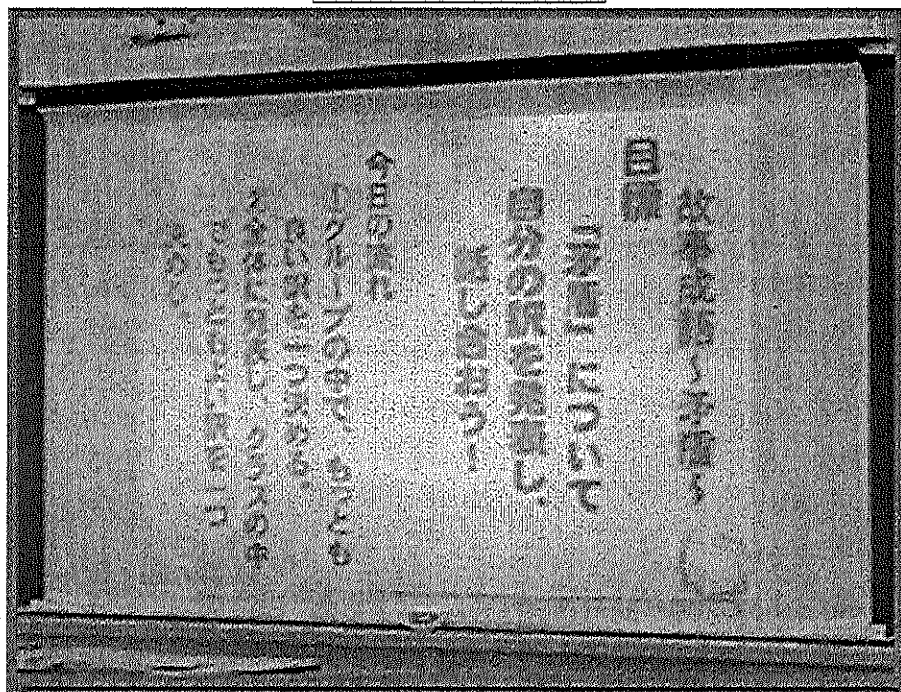
自分と結び付ける

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善により実現したい子どもの姿をピクトグラムでイメージ化

※ 但し、全ての姿を表現したものではない。

学習活動の紹介 主体的な学び

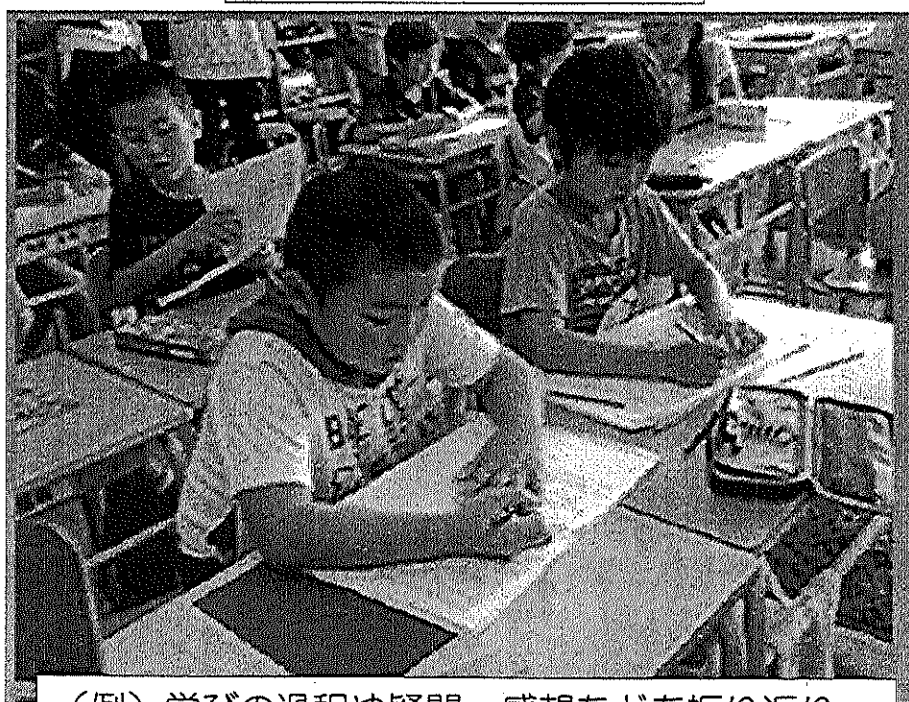
○見通しをもつ



(例) 本時の目標や学習の方法を示し、学びの見通しをもたせる。(中学校)

学習活動の紹介 主体的な学び

○振り返って次へつなげる



(例) 学びの過程や疑問・感想などを振り返り、次の学びへとつなげる。(小学校)

対話的な学びにより実現したい子どもの姿（イメージ）



互いの考えを
比較する



先哲の考え方を
手掛かりとする



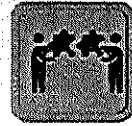
多様な情報を
収集する



共に考えを
創り上げる



思考を表現に
置き換える



協働して課題解決
する



多様な手段で
説明する

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善により実現したい子どもの姿をピクトグラムでイメージ化
※ 但し、全ての姿を表現したものではない。

平成29年度次世代型教育推進セミナー（北海道会場）
～アクティブ・ラーニングについて考える～配付資料を基に作成

学習活動の紹介 対話的な学び

○協働して課題を解決する



（例）グループ学習で出た様々な意見を比べ合い、まとめながら合意形成を行う。（中学校）

学習活動の紹介

対話的な学び

○共に考えを創り上げる

→ 目的は何か 手段
 (授業改善の視点)
 自分らの考え
 ゴールは
 「何が出来る
 ようになる
 のか。
 (授業改善)

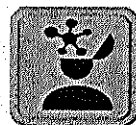


(例) 世論の形成と政治参加について、ジグソー学習を通じて班の意見を発表する。(高等学校)

深い学びにより実現したい子どもの姿 (イメージ)



思考して問い続ける



知識や技能を
概念化する



知識・技能を
習得する



自分の考えを
形成する



知識・技能を
活用する



新たなものを
創り上げる



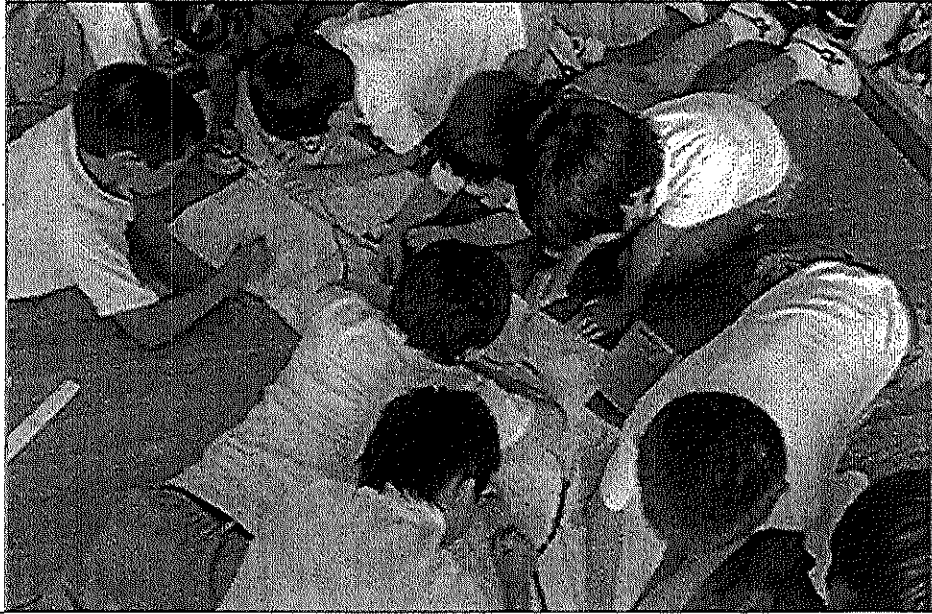
自分の思いや考えと
結び付ける

主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善により実現したい子どもの姿をピクトグラムでイメージ化

※ 但し、全ての姿を表現したものではない。

学習活動の紹介 深い学び

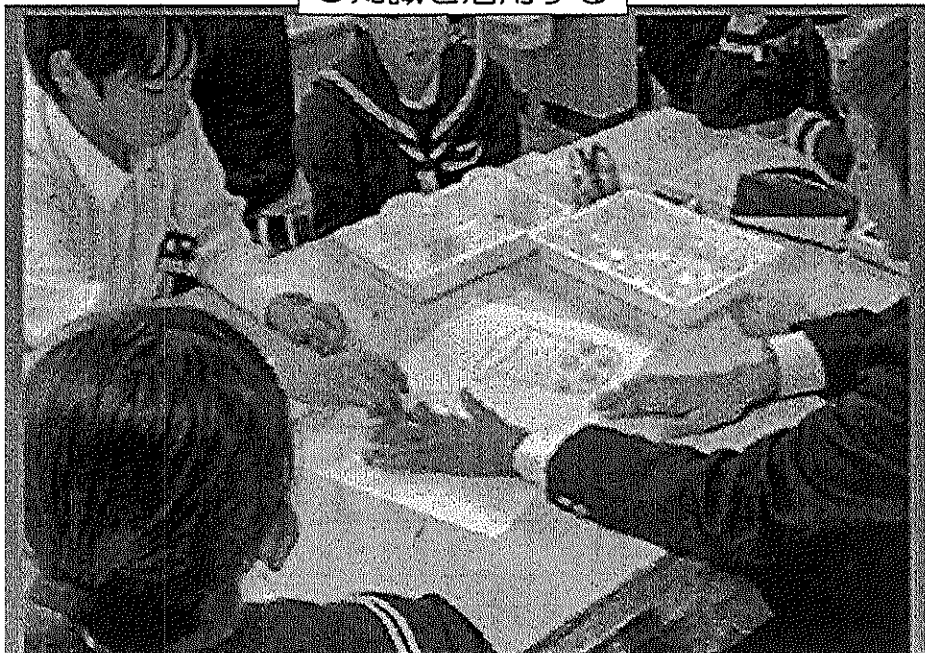
○思考して問い続ける



(例) 各教科で学んだ知識を関連付けて思考する中で、新たな課題を生み出す。(小学校)

学習活動の紹介 深い学び

○知識を活用する



(例) 前時までの既習事項を本時の学習内容と関連付けて、より深く理解する。(中学校)

3 各教科等の学びの深まりの鍵となる「見方・考え方」

3 各教科等の学びの深まりの鍵となる「見方・考え方」

特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、
「見方・考え方」である。

▶ マーカー部分
授業改善部分

「深い学び」の実現に向けて

特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが、「見方・考え方」である。

(中略)

例えば、「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決(探究)の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか、様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、さらに、新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているかなどの視点から、授業改善を図ることが考えられる。

小(中)学校学習指導要領解説理科編(平成29年6月 文部科学省)を基に作成

自分の言葉で、日常授業における見方・考え方を働かせた子どもの学びの姿をイメージしてみましょう

「例えば、〇〇科の授業で…」

算数科の授業で、思考力と活用、互いの考えを
交流する活動を通して、論理的かつ統合的かつ
確的(活用力) 異同

4 授業改善の実際

5 単元等の計画

5 単元等の計画

単元等の目標

何を学ぶか

何ができるようになるか

単元等を通しての課題

どのように学ぶか

- ・自身の学びや意欲の自覚
- ・学びの深まり
- ・教師が意欲を、子どもに引き出すこと

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

単元等

	1	2	3	...
--	---	---	---	-----

単元等全体で3つの学びが実現できているか

6 単元レベルで授業改善を考える

【ねらい】

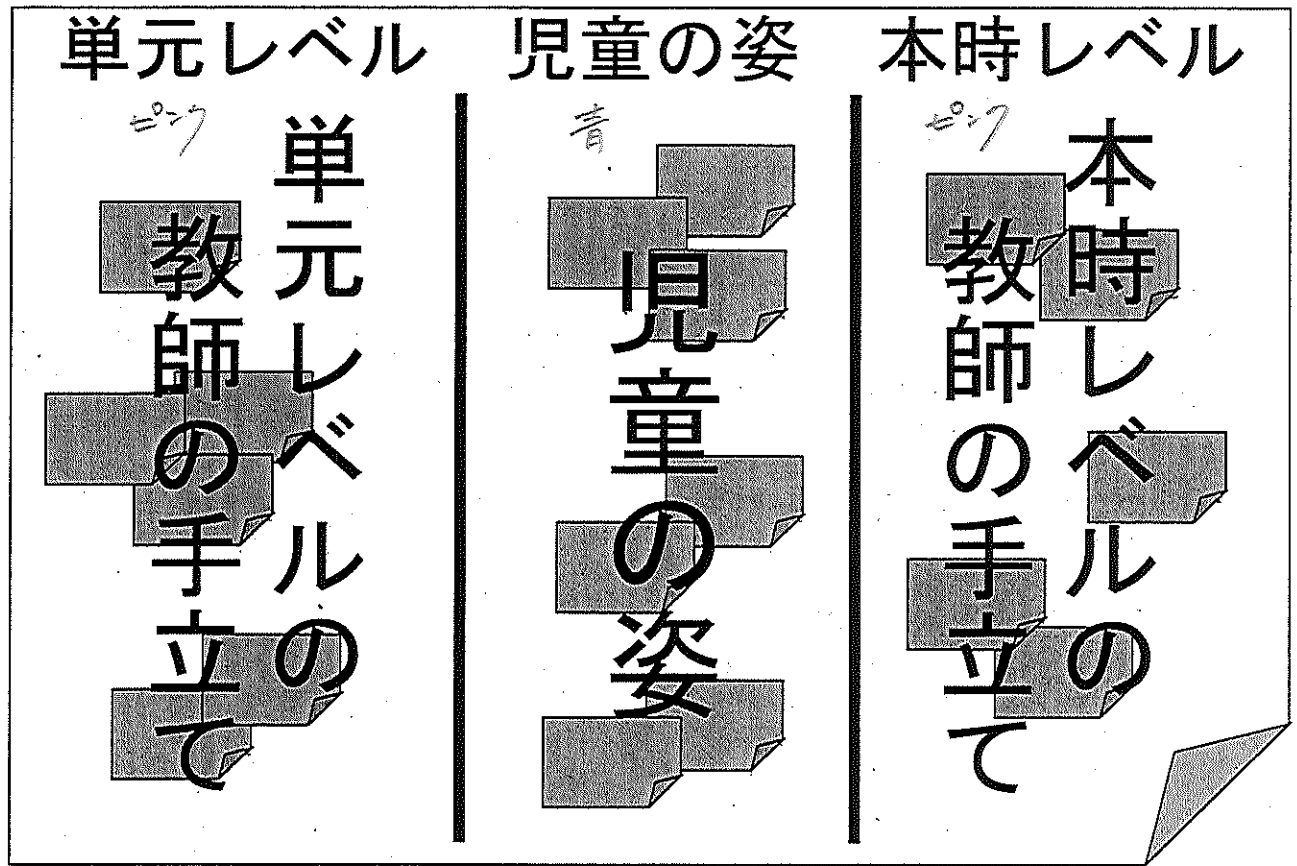
授業動画と学習指導案から児童の学びの姿と教師の手立てを関連付ける演習を通して、単元レベルでの授業改善のイメージをつかむ

小学校第6学年 国語科

単元名

つなげて重ねて読み解く、立松和平の表現する命

～読書座談会で、作者の考えを捉え、命に対する自分の疑問を解き明かそう～



- | | | |
|---|--------------|-----|
| 1 | 演習の説明 | 5分 |
| 2 | 指導案の把握 | 5分 |
| 3 | 授業動画の視聴と個人分析 | 15分 |
| 4 | グループ協議 | 35分 |
| 5 | 全体交流 | 5分 |
| 6 | 会場間共有 | 10分 |
| 7 | 振り返り | 5分 |

6 単元レベルで授業改善を考える

7 本時①の指導 (7/9)

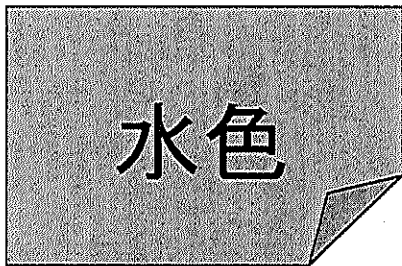
(1) 本時①の目標

『海のいのち』の叙述から、作品を象徴する言葉や「命」というテーマとつながっている言葉を捉え、読書座談会で解決したい課題として取り上げることができる。 (読むことエ)

(2) 本時①の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 (評価方法)
<p>1 本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 第2回読書座談会で解決したい課題を出し合い、整理しよう。 </div>	
<p>2 グループごとに課題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の疑問や課題としたいことを出し合い、整理する。 ・他のグループで出ている課題を見合い、自分たちの読書座談会で取り上げたいものを考える。 ・読書座談会で話し合いたい課題や話し合うべき課題を整理する。 <p><課題の整理の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み誤りについてはその場で指摘する。 ・少し話し合えば分かるような課題は、その場で解決する。 ・少し話し合っても答えの出ない課題は、読書座談会の課題とする。 	<p>◇ [読エ] 「千びきに一びき」などの言葉や太一がクエにもりを打たない場面などの『海のいのち』の象徴的な場面及び、シリーズ作品や既習の作品とのつながりのある「命」を表現している言葉を捉えて読んだり、その言葉を読書座談会の課題として取り上げたりしている。</p> <p>(話し合いの様子、学習シートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の整理については具体的に例示し、指導する。 ・話し合いたい順番は、基本的に自由とするが、テーマや題名については後半に話し合うように助言する。

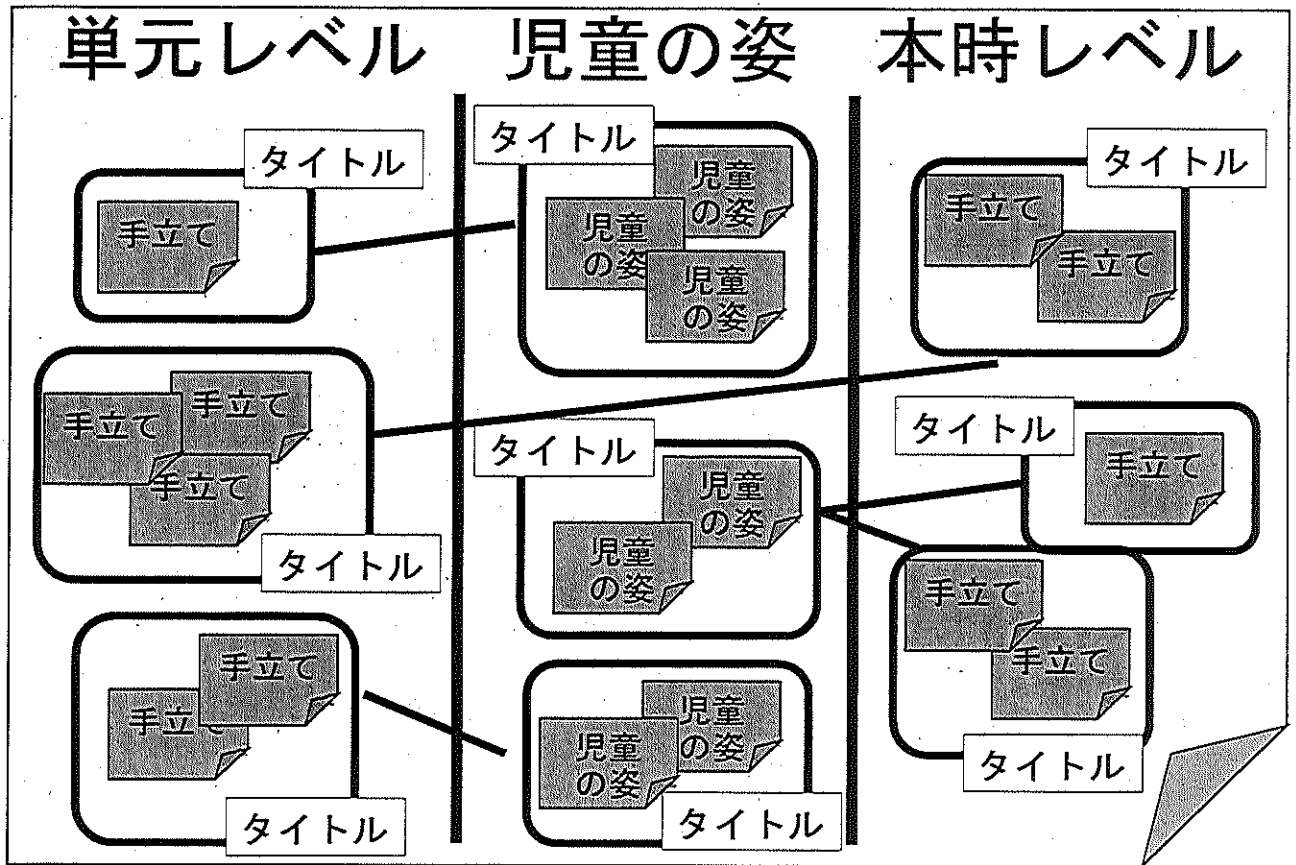
6 単元レベルで授業改善を考える



児童の姿



教師の手立て



◎ 対話の必要性の理解

7 まとめ

- ・ 各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学習の過程を重視した学習の充実を図る この資質・能力を身に付けさせる。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、指導計画をデザインする

すべての視点を一単位授業の中にあっかうのではなく、単元全体を通じて

平成30年度

「管内研修センター等連携」研修講座

主体的・対話的で深い学びの
実現に向けた授業改善

ねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に係る講義や実践発表、演習を通して、学習指導要領に示された指導事項を確実に育成するための授業改善の在り方について理解し、今後の学習指導の充実を図る。